

# ピクトグラム導入による ADL 把握の有効性

## 研究計画書

医療法人啓清会 関東脳神経外科病院 5 病棟

研究代表者 柿沼 恵

第1版 制作年月日：令和7年1月13日

1. 研究名称

ピクトグラム導入による ADL 把握の有効性

2. 研究実施体制

本研究は以下の体制で実施する。

- |           |           |     |     |      |
|-----------|-----------|-----|-----|------|
| 1.研究責任者   | 関東脳神経外科病院 | 看護科 | 師長  | 中村聖子 |
| 2.研究分割者   | 関東脳神経外科病院 | 看護科 | 看護師 | 柿沼 恵 |
|           | 関東脳神経外科病院 | 看護科 | 看護師 | 高橋 蘭 |
| 3.個人情報管理者 | 関東脳神経外科病院 | 病院長 |     | 清水暢裕 |
| 4.外部分析機関  | なし        |     |     |      |

3. 研究背景・動機

回復期リハビリテーション病棟では毎日のように新規転入を受け入れており、患者様の ADL 情報の共有が不十分なまま介入している現状がある。また、ADL 変化に伴う移動介助の変更では受け持ち看護師とリハビリスタッフで情報を共有し、受け持ち看護師がホワイトボードに記載したものを各スタッフが観覧し情報を得ているが、受け持ち以外の看護師が素早く、その患者様の状況を把握する事が難しく、情報が不十分なまま対応している。全てのスタッフが即座に ADL を把握出来るようピクトグラムを設置し、共通認識が生まれ、患者様を安全かつ迅速に援助できるのではないかと考え、この研究に至った。

4. 研究の目的及び意義

研究目的として、ピクトグラム設置により回復期病棟スタッフ間での ADL 把握にピクトグラムが有効であったか。

研究の期間及び方法

(1) 研究実施期間

2025年2月～2025年5月

(2) 研究のアウトライン

ピクトグラムを作成・表記し患者様の ADL 状況を素早く把握でき、適切な援助を行う事が出来たかスタッフにアンケートを行う

(3) 研究のデザイン

質問調査による実態調査研究・量的研究

(4) 研究の実施方法

看護師及び助手にピクトグラム使用前後でアンケートの実施

(5) 目標症例数

なし

(6) 目標症例数の設定根拠

なし

(7) 調査項目と資料・情報の収集方法

各文献を参考にしてアンケートを作成

5. 評価項目

アンケート結果にて

ピクトグラム表記前後による職員の意識変化

6. 研究対象者の選定方法

(1) 選択基準

回復期リハビリ病棟看護師16名、看護助手8名

7. 研究の変更、中止

本研究の研究計画等の変更または改定を行う場合は、あらかじめ関東脳神経外科病院倫理委員会の承認および病院長の許可を必要とする

8. インフォームド・コンセントを受ける手続き等

(1) 研究内容の公開（オプトアウト）

目的を含む研究の実施についての情報を関東脳神経外科病院のホームページに掲載すること、また研究員の連絡先を明記することで研究対象者が拒否できる機会を保障する。

9. 個人情報の取り扱いと匿名化の方法

本研究で取り扱う試料・情報等は、個人情報管理者が匿名化したうえで研究・解析に使用する。匿名化の方法については、誰のものか一見して判別できないよう、本研究で

取り扱う情報から個人を識別できる情報を削除し独自の符号を付す作業を行う。個人情報と符号の対応表は、個人情報管理者が厳重に保管する。また、本研究の成果を学会発表および論文発表する際には、研究対象の個人を特定できる情報は一切使用しない。

10. 研究対象者に生じる負担並びに予測されるリスク及び利益、これらの総合的評価ならびに当該負担及びリスクを最小化する対策

(1) 予測される利益

ピクトグラム表記により個々の患者様の ADL が素早く把握でき、適切な援助の提供と繋がり患者様の安全を守る事が出来る。

(2) 予測される危険と不利益

特になし

11.資料・情報の保管および廃棄の方法

研究対象者の本研究終了後に継続する通常診療において活用される従来の診療情報については、医師法等の関連法規に従い保管する。本研究の実施の為に匿名化され取得した研究関連情報については、研究責任者の所属する部署の外部から切り離されたコンピューターのハードディスク内に保管する。情報を取り扱う研究者は、研究情報を取り扱うコンピューターをパスワード管理し、情報の紛失・遺漏等に十分配慮した取り扱いのうえで保管する。

本研究終了後において、本研究で得られた研究対象者の情報を他に研究において使用することはない。研究責任者は、研究終了後、研究等の実施に係るデータ及び文書を研究の中止または終了後少なくとも 5 年間、あるいは研究結果発表後 3 年が経過した日までの間のどちらか遅い期日まで保管する。その後、個人を特定されないよう処理したうえで破棄する。なお、通常診療に用いる医療情報の管理・破棄は医師法等の関連法規の規定に従うこととする。

12.研究期間への長への報告内容及び方法

(1) 研究の実施の適正性若しくは研究結果の信頼を損なう事実等の情報を得た場合研究責任者は、研究の実施の適正性若しくは、研究結果の信頼を損なう事実若しくは情報または損なう恐れのある情報を得た場合は、速やかにその旨を当該病院長へ報告する。

(2) 研究の倫理的妥当性もしくは科学的合理性を損なう事実等の情報を得た場合研究責任者は、研究の倫理的妥当性若しくは科学的合理性を損なう事実若しくは情報または損なうおそれのある情報であって、研究の継続に影響を与えると考えられるものを得た場合は、遅延なくその旨を該当病院長へ報告する。

- (3) 研究終了（中止の場合を含む）の報告  
研究責任者は、研究を終了したときは、その旨及び研究の結果概要を文章により病院長へ報告する。
- (4) 研究に用いる資料及び情報の管理状況  
研究責任者は、得られた情報等の保管について、必要な管理を行い、管理状況について病院長へ報告する。

13. 研究の資金源等、研究機関の研究に係る利益相反及び個人の収益等、研究者等研究に係る利益相反に関する状況

- (1) 研究資金  
病院にて資料等の印刷を行うが、研究対象者や個人に負担費用は特にない。
- (2) 利益相反  
本研究の計画・実施・報告において利益相反はない。

14. 研究に関する情報公開の方法

2025年度 院内研究発表の方法に従う

15. 研究対象者及びその関係者からの相談等への対応

研究対象者等及びその関係者からの相談については以下の相談窓口にて対応する。

16. 委託業務内容及び委託先の監督方法

本研究における委託業務なし

17. 使用文献

- ・ピクトグラムの医療・福祉現場への導入効果 2001 日本福祉工学会公演論文集
- ・「記号の辞典」三省堂 1996

**【相談窓口】**

研究責任者

関東脳神経外科病院 5病棟 師長 中村聖子

〒360-0804

熊谷市代 1120

TEL：048-521-3133

## R7 年看護研究

## 前期アンケート調査

- 1 患者様の対応時、ADL が曖昧で不安に思った事がある

(はい・いいえ)

- 2 介助時に直ぐに ADL が分からず困った事やヒヤッとした事がある

(はい・いいえ)

- 3 担当時に ADL の情報をホワイトボード (変更事項) やカードックスを見て  
確認しているか

(はい・いいえ)

- 4 ADL の情報共有でリハビリスタッフや看護師間で連携が取れていると思う  
か

(はい・いいえ)

- 5 情報不足のまま患者様を受け持ちした事があるか

(はい・いいえ)

ご協力ありがとうございました！

1月30日までにアンケート用紙の提出をお願いします

R7年 院内研究

後期アンケート調査

1 患者様の対応時ピクトグラムを使用する事でADLが把握できましたか

(はい・いいえ)

2 ピクトグラムを使用し不安なく介助できましたか

(はい・いいえ)

3 ピクトグラムを設置して良かったと思いますか

(はい・いいえ)

4 ピクトグラムは必要だと思うか

(はい・いいえ)

5 現在のピクトグラムに対し改善点があれば教えてください

ご協力ありがとうございました！

月 日までにアンケート用紙の提出をお願いします